

<p>第 85 号 平成 27 年 12 月号</p> <p>HPに 創刊号から 連載中</p>	<h1>もう一つの道</h1>	<p>山田整骨院 熊本市中央区出水 4-25-1 096-3664-7611 <a href="http://yamadasu.com/">http://yamadasu.com/</a> 熊本交通事故, 山田整骨院 <input type="button" value="検索"/> <a href="http://www//jiko-kumamoto.net/">http://www//jiko-kumamoto.net/</a></p>
--	-----------------	--

**西式で痔瘻が治るか**  
会員・子爵 高倉 篤 鷹 月刊 西式 昭和 13 年 5 月

総て病気に愉快なるものは勿論ないが、その箇所が誠に不都合な所であり、人目にふれぬ為に同情少くして、然も本人には不愉快千万この上なく、自然あぢきなき日を送るという状態になるものは実に痔疾である。

去る大正十年頃より、私は痔疾に悩まされ、さればというて医者にかかる程の苦痛もなきため捨て置いた所、だんだん出血の度を増して、体はだるく記憶は悪くなり、後には脱肛さえ起し、遂には歩行困難で、二三日全く床の中に横たわったことさえあった。忘れもせぬ大正十二年大震災翌年の春、止むなくある退職軍医で痔専門の医院を開いて居る人に診てもらった。そこの注射で、十数日後痔核の方は治ったが、その軍医から初めて痔瘻のあることを教えられ速やかに手術をする様に勧められた。幸い患部は微少であったが、手術の方法その他痔疾に関するやゝ詳細なることをその先生から聞いた。そこでかつて痔の手術を受けた人々の話を聞き又その後経過等を二三の人に尋ねてみたらどうも予後の面白くないことが多い様で、手術を簡単に考えて居た私の、余りに認識不足であったことを省みて自ら驚いた。

ところで先年痔瘻で困った友人の話を聞き、手術せず単に差し薬で治ったという某医師に紹介してもらいその診断を乞い、一ヶ年余も辛抱して通いつづけ漸く治癒したことがある。その後三四年を経てまた痔核にかかり、今回は親族の紹介で飯田町の某病院に通って治ったことがある。

昭和五年西式研究に志してより今日迄痔疾に遠ざかって居たのであるが、旧臘身体違和の状態から推測して、また痔瘻の再発と考え十二月二十四日、西先生に御相談したところ、やはりそうであると申され、その箇所さえ指示されたのである。先生は一週間の断食を行えば可なるも、止むを得ずば二週間をおいて三日間の断食を三度行えば先づよかろうということであった。私は十五、六年前の病状と一年有余の医院通いを追想して、真に恥しいが果して先生の言われるゝ様に、かかる簡単なることで痔瘻が治るものであろうかと疑った。

しかし私は常に、病気は食物との関係、並びに便秘から起こるもの多く、断食はその適切なる療法手段であると確信するから、早速翌二十五日から議会休暇を利用して三日間の断食を行い二週間を経て更に第二回目に入り、而して所要の期日を経、一月下旬第三回目の断食を終了したのであった。

その効果は果たしてどうであったろう。私は白状する。これまで実は半信半疑であ

ったが、この簡単な断食によって、痔の故障状態は全く除かれたのである。尚この期間中西式運動並びに温冷浴を行うこと常のとおりであったことは勿論である。

全国の会員諸賢の中には、私と同じ痔に悩まされて居る方も多と思うが、私の躊躇なく呈する詞は、なるべく早期に先生とご相談して行う「断食」の一言である。逡巡して苦悩を増し、更に手術を行うが如きことは愚の骨頂であるということを申添えて置きたい。

## 解 説

この投稿は昭和13年のものですが、75年を経て平成の現在痔疾の現状はほとんど変わっていないという印象です。どこに進歩が見られないかと云いますと、予防がなされていないということに尽きます。患者さんが視力低下等、少し体調が悪くなって診断を受けると、医師は「様子を見ましょう」と言って症状がもっと悪化するのを待つのが医療の基本的態度です。予防の研究は医学ではマイナーの立場です。医療は治して、なんぼの世界であり、極論すれば予防しても金にならないということです。これは医療する側の立場であり、症状に悩む患者の立場とは違います。つまり患者サイドは症状が軽い時点で解決して、再発しないのが理想です。その要望に応えるのは健康法であり、現時点では医学ではありません。この投稿は断食療法で痔疾を治した報告ですが、何故断食が痔を始め病気治療に有効であるかと云いますと、食物を摂らず消化吸収活動をしないと、排泄にエネルギーが集中して体中に滞留している老廃物、毒素が十二分に排泄され、結果として体中がクリーンになり、正常な細胞、組織となり、正常な、健康な状態になると云うことです。私が師事した渡辺正先生は、「断食中は、我々の心身活動のエネルギーを外から取ることができないから、我々の貯蔵した栄養から取らねばならない。そうすると、いわば蔵払いで、筋肉や内臓のすみずみから栄養を引き出すから、身体の全面に亘って、血液はくまなく循環するので、単に貯蔵された栄養ばかりでなく、滞留した種々の毒素も引き出される。そのため隅々まで掃除ができるということになる。特に胃腸は、食物がはいらないから収縮を始め、胃拡張や胃下垂は自然に回復する。腸管は栄養である食物がはいってこないから、これも収縮する。そうすると、腸壁に永年付着している宿便はだんだんはがれてくる。結腸は、殊に糞便停滞のため、或は腸麻痺を起し、或は巨大結腸となり、或は過長結腸のため腸の重畳を起しているものであるが、これらは停滞していた宿便が排除されるため、縮小して正常に復する。…略…肝臓は、多くは肥大又は硬化しているものであるが、これは断食によって過剰の栄養や、滞留した毒素が引き出されると、縮小し軟化するものである…」と記しています。断食には勿論限界もありますし、危険も伴います。それ故、熟達した指導者の下で行わなければなりません。久留米の愛康内科医院で石井医師が断食療法を行います。少食、生野菜食、体操、温冷浴の健康法を行えば痔疾にはなりません。35年前私の同級生が痔の手術のために亡くなりました。残念でなりません。